

[様式2]

御提案書	
技術分野	② 汚染水処理(トリチウム処理等) 及び ③(海水中の放射性物質の除去)
御提案件名	トリチウム希釈用貯水池を備えた可搬式汚染水タンクモジュール・システム
御提案者	上原 正勝
<p>1. 技術等の概要(特徴、仕様、性能、保有者等)</p> <p>トリチウムを含有する大量の水は、①オンサイトに設置した可搬式汚染水タンクモジュールに汚染水を一時貯蔵すること、②そして発電所敷地外の遠隔地に陸送及び船による輸送を行い他地域での保管も可能にすること、③これとは別に可搬式汚染水タンクモジュールの近傍に希釈のための水源として貯水池を設置して告示濃度以下に低減することにより海への放流が行えること、この3方策が実施できるようにする。告示濃度以下になった水は地元の了解のもとに放流することが可能であることはいうまでもない。</p> <p>(仕様と性能)</p> <p>① 陸上及び海上輸送可搬が可能なコンテナ寸法に合わせ、外径3m×長さ11mの円筒形鋼管の両端に塞ぎ板を水密溶接で固着した汚染水タンク、この1基の単位を汚染水タンクの「基本ユニット」として構成する7基のタンク群を1つの「モジュール」として、このモジュール3つを配管接続することにより標準貯水量計1314トン进行貯水するタンクとすることができる(所要スペースは約40m×32m)。</p> <p>②可搬式汚染水タンクモジュールは、ALPSからの給水の流量調整他、運転のための中継装置と機能として、管路や漏れ防止やシステム異常時の緊急停止と監視を行うことができる。</p> <p>③ 希釈用貯水池はトリチウム水濃度低下のため大量の清浄な自然水が必要なため、敷地境界近傍(OP+35m付近)等に増設された揚水井戸から汲み上げられる水は当該希釈用貯水池に集中させて貯水するので、段丘下の発電所建屋地下への地下水流れ込み量はかなり低減することが見込まれる。</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況：実用化の状況：トリチウム水を希釈する水資源を貯水する貯水池はコンクリート構造であり、トリチウム水を貯蔵する可搬式汚染水モジュールは大口徑鋼管利用のタンクであるが、大口徑鋼管は原子力発電所及び火力発電所に使用されている循環水管の実績があり、いずれもすぐに実施設計に着手できる内容である。 ・開発・実用化に向けた課題・留意点：揚水井戸の適切な位置の検討が留意点である。 ・その他(特許等を保有している場合の参照情報等)：特にない。 	